

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
訓練内容	<p>○多くの世代が参加できる訓練</p> <p>○マンネリ化</p> <p>■防災訓練実施の際、マンション内であり得る災害・防災に関して話し合った。今後の課題は高層階からの避難、火災からの避難、消火訓練。</p> <p>■今まで防災訓練を実施してきていないので火災の対応などノウハウがない。身動きがとれない状況。</p> <p>■10/27に防災訓練実施。マンホールトイレの実験的使用ができなかったこと、南小体育館に車椅子が入れなかったことが、残念だった。</p>	<p>○参加者同士意見交換をし、訓練の課題・問題を明らかにする。</p> <p>○少しずつ変化する部分と、毎年同様に行う部分の両面を大切にしている。</p> <p>●何人か動けそうな人を集めてもらえれば、危機管理課で体制の整え方を指導する。</p> <p>●震災時は水道・電気が止まり、水洗トイレが使用できなくなる。マンホールを利用したトイレを市内数か所の小学校に設置しているところ。</p>
中高生の参加	<p>○園児、小学生は親とともに参加。中・高校生は不参加。</p> <p>○中学生は戦力なので、防災訓練に参加させたい。</p>	<p>○訓練が市内一斉同日開催ならば、中学生全員が参加できるのではないかと。</p> <p>○褒めることで参加意欲が湧く。</p> <p>○中学生に防災訓練の企画案を作らせてはどうか（昼夜、災害初期段階、避難所生活など色々なパターンを中学生に考えさせ、それに地域の人が寄り添っていくなど）</p>
要援護者	<p>○要援護者の把握</p> <p>○高齢化。高齢者は集まる機会がない。</p>	<p>○要援護者を一軒一軒回り、地図に印をつける了解を得た。</p> <p>○これまで訓練実施せず。外に連れ出す意味も兼ねて、今年は訓練をやるかと検討中。</p>
マンション	<p>○マンション住人の参加はほとんどなし。</p> <p>○自治会ができて5年。マンション内の住民同士も全員把握できていない。</p>	<p>○防災フェスタ(防災の勉強会)を開催した。防災のことも試行錯誤して考えなければいけないが、まず住民のコミュニケーション、きずなづくりが大事。</p>
地域と学校の連携	<p>○南小PTA「おやじの会」結成11年目。さらに地域と子供たちをつなげられるよう事業展開を図る。</p> <p>○2月に南中におやじの会を立ち上げた。役割は3世代をつなぐこと。</p>	<p>○小学生と地域の方が顔見知りになるようイベントや活動を実施予定。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取り組み	取り組みの担い手／アイデア
訓練の内容	<p>■どんな取り組みも何年か実施するとマンネリ化する。参加人数が減少したら他の方法を考えていく。</p> <p>■9/1に6町内合同防災訓練に参加。暑さのため訓練はおざなりで危機感がない印象。自分たちの身になる訓練か疑問を感じた。時期や内容など、本当に必要なことをしっかり話し合ってから訓練を実施すべき。</p> <p>■日程や訓練内容について、これまでの固定観念にとらわれすぎているように思える。</p> <p>■昨年まで防災訓練を実施していなかった。昨年12月上旬の防災倉庫点検の結果、大半の消火器の期限切れが判明。半分ほど取り替えようと、今年危機管理課の指導のもと中田町南と消火訓練を実施。11組の各組長が各地区の消火器を持参した。昨年から比べれば大いなる進歩。今後はもう少し参加者を集め、炊き出し訓練実施が目標。</p> <p>■避難場所の南中体育館・防災倉庫の見学を実施。実際に体育館を見ることで避難所生活の大変さが実感できたと思う。</p> <p>■消火器や可搬ポンプを使用しない消火活動も検討すべき。バケツを使わないバケツリレーなど、バケツがない場合に水路からいかに水を運ぶか知恵（レジ袋使用など）を絞り、実地体験を積んでいく。</p>	<p>■防災訓練時、昨年・今年と各家庭に1枚安否確認証を配布。</p> <p>■参加者に非常食を分配。</p> <p>■年中行事化していること、避難所（南小）が町内にあること、景品を配布していることが参加要因。</p> <p>■次年度は中学生の参加も考慮し、12月の地域防災の日に訓練を実施するよう引き継ぎたい。</p> <p>■来年度の訓練内容を申し送りするような形にすると、新年度の役員が楽になる。</p> <p>■中心は炊き出し訓練。ハイゼックス炊飯、アルファ米、飯盒炊飯など、参加型の炊き出しを行い試食。にぎやかで仲良くできる取り組みを実施。</p> <p>●自宅が使用できれば過酷な避難所生活はしなくて済む。自宅の耐震補強などが重要。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取り組み	取り組みの担い手／アイデア
中高生の参加	<p>○中高生の活躍できる場面を取り入れる。</p> <p>○学校から参加証明書を発行してもらう</p> <p>■中学生は部活が中心。大会などがあると訓練に参加したくても部活を優先する。多くの町内が12月はじめに訓練を実施すると決定してくれれば、学校も全面的に協力可能。ぜひ話し合ってほしい。</p> <p>■訓練日を学校に知らせてもらえれば担任から子ども達へ参加呼びかけができる。</p> <p>■社会福祉協議会による一泊二日の宿泊型避難所体験訓練に参加。中学生、高校生は力を発揮し本当に頼りになると実感した。ぜひ町内でも中・高校生を指導し、戦力にしてほしい。</p>	<p>■中学生・高校生の参加は十数人とあまり多くなかったが、役員会に参加し、炊き出し訓練や説明などを担当してもらった。</p> <p>●今年、西小・錦田小が防災キャンプを実施。北小ではPTA主催の防災学習会を実施。各小学校の取組みを参考にしてほしい。</p>
要援護者の支援	<p>○要援護者マップをつくる。</p> <p>■要援護者がどこに住んでいるか確認してほしい。民生委員も協力する。</p> <p>■要援護者リストをもとにして、誰が誰をどう助けるかまで話し合ってほしい。</p>	<p>○敬老祝い金を渡す際に訪問して健康状態を確認。</p> <p>●芙蓉台ではおたすけ隊を作り毎月避難訓練を実施している。参考にしてほしい。</p>
マンションとの係わり	<p>○コミュニケーションの場を増やす。</p> <p>■隣に誰が住んでいるか知らないという状況なので、大人も子どもも参加できるようなイベントづくりから始めた。</p> <p>■学校の避難所がいっぱいになってしまった場合、マンションのエントランスを借りなければならない状況も発生しうる。周りの町内からマンションへ連携を呼びかけていくことも必要ではないか。</p>	<p>■七夕祭り、クリスマス会等イベントを多く実施。抽選会では大人も楽しめる景品を用意。</p> <p>■イベント時にはボランティアを募集。</p> <p>■イベント時に必ず防災訓練を実施。午前と午後に分ける、15分程度など参加しやすいよう工夫する。</p> <p>■近隣の業者に景品提供を依頼している。今後は地域の参加も視野に入れていく。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取り組み	取り組みの担い手／アイデア
地域と学校の連携	<p>○地域の方が参加できるイベントの開催</p> <p>■のびる幼稚園には色々な地域から子ども達が来ている。地域の連携は難しい。数年前から近所のお年寄りをクリスマス会やのびる祭りなどイベントに招待している。少しずつ協力・連携ができていく。地区のお年寄り・車椅子利用者などの受け入れを考えている。</p> <p>■青木保育園の園舎は3年前に耐震補強実施。安全だと思うが、状況によっては南中に避難する。毎月の防災訓練とは別に、11月に社会福祉施設の総合防災訓練に参加。例年歩道橋を使用していたが、交通事情の変化を考慮し横断歩道を通る避難訓練を実施。</p> <p>■南幼稚園は幸いなことに小学校、中学校と隣接していて、中学生が1年に1～2回訓練で園児を連れに来てくれるので多少は安心できる。</p> <p>■大事なことは子ども達が地域の方の顔を知り、顔を知ってもらうこと。地域でも訓練やイベントで子ども達と交流し、南小でも地域の人を呼ぶ事業を実施している。</p>	<p>■地域の方とおやじの会で「地域の安全パトロール、地域へ倍返しだ」事業を企画。カーブミラーの清掃や止まれシールの貼り付け、危険個所の確認作業を実施。おやじの会会員と他地区役員の交流があり非常によかった。</p>